

中村製畳 株式会社

〔業種〕 その他製造業

事業
計画名

畳の端材をリサイクル化した
訪日観光客向け豆畳の開発

- ◆代表者名 中村 豊嗣
- ◆設立年月日 昭和44年5月1日
- ◆所在地 〒920-0051
石川県金沢市二口町ハ58
- ◆TEL 076-225-7193（本社）
0767-22-1158（羽咋店）
- ◆FAX 0767-22-5225
- ◆URL <http://nakamuratatami.jp>
- ◆E-mail info@nakamuratatami.jp
- ◆従業員数 3人
- ◆資本金額 10,000,000円



商品 豆畳1



ミマキエンジニアリング プリンター UJF3042FX

事業に取り組んだ経緯・背景

近年使用されている建材畳は、昔から使用されていた藁畳に比べリサイクルして使用することが少なく、ほとんどが産業廃棄物業者により焼却処分されている。

そこで、当社が以前から行っている排出された産業廃棄物のリサイクル化の取り組みとして、まだ使用できる畳の端材と当社の畳製造技術を活かし端材から作る豆畳を開発した。これをノベルティグッズとして地域のイベントで販売を行っていたが、新たに訪日観光客向けの土産として開発するため本事業に取り組むこととした。

事業内容

豆畳を購入して頂いたお客様に購入理由や改善点などを確認するためのアンケートを実施したところ、「販売価格が高い」「飛行機の機内に持ち込めない・錆が浮いてくる」「使い方を教えてほしい」

などの課題が上がった。

それぞれの課題の解決に向けて、事業を実施した。「販売価格が高い」

当社が畳製造に通常使用している裁断の製造ラインは、小さいサイズで73cm×73cmが最小で、極端に小さい豆畳（15cm×30cm）は既存の機械では裁断できないため、カッターナイフを使用し裁断を行っていたが作業時間がかかりすぎていた。そこで新たに畳床裁断機を導入し、作業時間の短縮化を図った。

「飛行機の機内に持ち込めない・錆が浮いてくる」

畳表や畳へりは通常なら糸で縫い付けていくが、製品のサイズが小さいので逢着機で縫い付けが出来なかったため、タッカー（木工や建築用工具で布状や網状のものを針で固定する工具）で打ち付けていたことから金属反応や錆が表れた。そこで、通常の工業ミシンでは縫えない厚み2cmの極厚の物を縫え、さらにサイズの大小にかかわらず糸で縫着出来るミシンを導入し、課題の解決を図った。

「使い方を教えてほしい」

本来はそれぞれ自由に使い方を考えればよいが、この事業では使用方法を提案するため購入対象を訪日外国人にし、外国人が好む日本独自の文化や情緒を描いた絵画として壁などに飾るインテリア部門の開発を行うこととした。そこで凸凹した物や厚みのある物にも印刷ができるプリンターを導入し、土産物のインテリア畳開発を行った。

事業の成果

豆畳開発において問題点であった「販売価格」「施工方法」「使用方法」を改善するため、畳の端材を適切にカットできる畳床裁断機、15ミリの畳を縫えるミシン、畳表面にデザインを行えるプリンターを導入し製造プロセスの改善を行った。

これにより、販売価格低下、安全性の確立、和のデザインを活かしたインテリア畳の活用方法の提案を行う事ができ、顧客ターゲットを明確化した新たな価値の創造を図ることが出来るようになった。



商品 豆畳2

事業の現在の状況

当初は訪日外国人向けとして、各地域の土産物店に卸す計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、訪日外国人客が大幅に減少、土産物店も休業してしまい、計画に大きな影響がでた。そこで、石川県のアンテナショップ事業を通じて、香港とシンガポールの現地ショップに実験的に商品を置かせて頂き、現地の反応をチェックしながらデザイン選定などを行っている。また、国内向けにインテリアとして取り入れてもらうため、手作り商品が多数出店されているECサイト『minne（ミンネ）』に登録し、特に日本人の目線からの商

品への反応をチェックしている。さらに沖縄の米軍基地内のお土産物店での販売も行っている。

販売状況は、正直まだまだではあるが、地道な営業と商品改良を続けていけば、訪日外国人が3000万人まで回復する頃には、必ずチャンスがあると確信する。

〔得意分野〕

畳製造販売、襖・障子張替、クロス張替

〔主要取引先〕

大手旅館、地元建設業者・ハウスメーカー

〔商品〕

畳、襖、障子、クロス

〔代表者からの一言〕

弊社、畳事業をはじめ、和室に関わる商品を提供しております。昔に比べ一般住宅から和室は減っていますが、へりなし畳など時代に合わせたデザイン性の高い商品は底堅い需要があり、新築のホテルなどには、インバウンド観光客などから好評ということで和室が多く採用されるケースもあります。

今では、日本人にとっても外国人にとっても和室は、日常ではないかもしれませんがその非日常に価値があると考えております。

この度、ものづくり補助金を活用させて頂き、採用した畳表面にデザイン加工を施せる技術や、普通の畳に比べ遥かに小さい畳を製造する機械も、必ず和室の未来を明るくする技術であると確信しております。今後も、ニッチな市場ではありますが、時代に合わせ変化を楽しみながら和室を後世に残したいと考えております。



代表取締役社長 中村 豊嗣